

シリーズパソコン周辺機器 ⑧

「マウス」

宮杉 浩

今まで様々な記録媒体メディアを紹介してきましたが、今回はパソコンを操作する上でキーボード同様不可欠な「マウス」についてお話ししたいと思います。

マウスは1961年にアメリカ人ダグラス・エンゲルバートによって発明されました。マウスの発明はパソコンの操作において画期的な変化をもたらし、今日に至っています。ちなみに「マウス」という名前は皆さんもご存じの通りネズミ（英語でマウス）に形が似ていることに由来しています。

その仕組みですが、マウス底部にあるボールや赤外線などのセンサが移動を検知し、2次元の移動距離をコンピュータに伝えるというものです。そしてついているボタンを押すことで（この動作を「クリック」と言います）様々な決定動作を行う事ができます。

さて、皆さんがお使いのマウスの底部センサはどのようなものでしょうか？一般的なマウスは底部を見るとホールがあってそこにボールがあるタイプです。このボールを取り出すとその奥に車輪のような物が2つあります。ボールの軌道がこの車輪に伝わり、その移動軌跡を検知するのです。このタイプのマウスをボール方式マウスといい、安価でお手軽なマウスとしてよく使用されています。しかしどうしてもマウスと設置する箇所のゴミや埃を巻き込んでしまうので、それが溜まり動作を悪くしてしまう事があります。ですので、マウスを使っていて調子が悪いなと感じたら内部を掃除する事をお勧めします。結構埃が車輪にこびりついていますので、綿棒などでしっかり取りましょう。あまり乱暴にすると車輪センサを傷めますので、注意してください。

ボール方式のマウスには上記のような欠点がありますので、最近は分解掃除が不要な赤外線やレーザー光をセンサとして利用している光学式（オプティカル）マウスが普及しています。光学式マウスの長所は埃などによる動作不良が起きない事です。ボール方式マウスと使い比べると、動作の快適さの違いが一目瞭然です。おそらく今後さらに普及が進んでいくことと思われます。ただ、光学式マウスにも欠点があります。透明なガラス板、プラスチック板などの上で使うと動作が全く検知できなかったり、マウスに触れていないのに画面上のマウスポインタが勝手に動いたりといった現象が出る事があ

るのです。光学式マウスを使うときはマウスパッドを敷きましょう。あと、最近のマウスには中央にホイールがついているものが増えてきました。このホイールボタンによって画面のスクロールなどの動作がより快適に行えるようになりました。またコードレスタイプのマウスも登場しています。

マウスはパソコンを操作するための不可欠なツールであり、その利便性はさらに追求されていくことでしょう。今後どのようなタイプのマウスが登場するのか注目していきたいと思います。

みやすぎ ひろし（係・管理運営課）